

直轄管理区間全景写真



ウェットランド施工箇所

◆ウェットランドの概要

背景：小川原湖における主要流入河川のうち、砂土路川の負荷量寄与率はT-Pで30%、T-Nで26%、CODで23%であり、流域面積比（全流域の約11%）に比べると、負荷量の高い河川であり、出水時初期の懸濁態栄養塩を沈殿、除去させる対策が重要となっている。

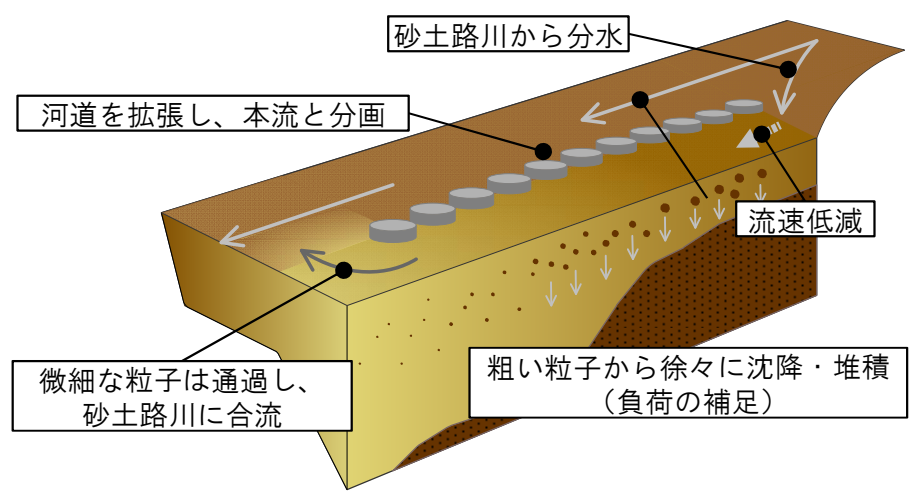
対策工：砂土路川河口部にウェットランドを設け、小川原湖への流入負荷を低減させる。

H27年度から試験施工を開始し、H28年度及びH29年度にモニタリングを実施（施設内流速分布、堆積厚、堆積物の粒度分布、底質分布等）により効果を検証し、R2から本施工を実施。

目標値：COD20%程度、T-P20%程度を削減目標とした。



流入河川の河口部に設置するウェットランドへの懸濁物質の沈殿により流入負荷を低減させる。

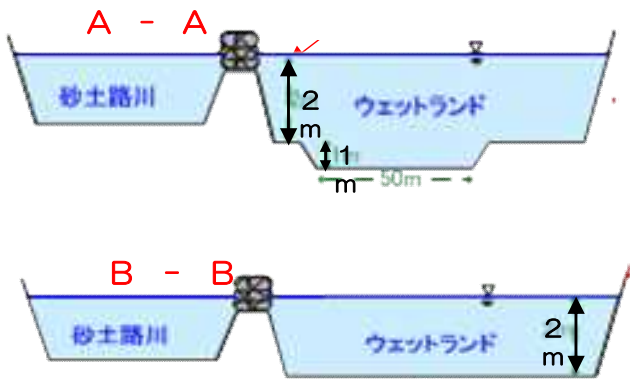
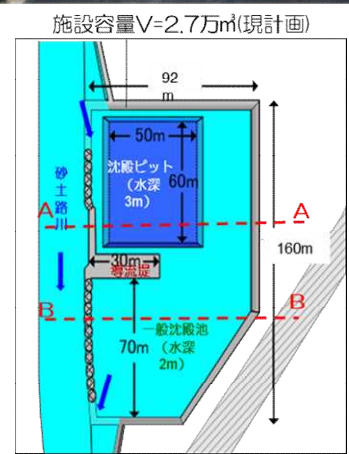


ウェットランドのイメージ図

【現計画規模の本施工施設の負荷削減効果(出水時)】

	T-P	T-N	COD
現計画施設の負荷削減率 (%)	19.8	4.5	18.3

※ウェットランドに流入した水の削減



◆ウエットランドの施工状況

工 事：令和2年度～令和4年度の3ヶ年で工事を実施し。

【1年目】R2年度



【2年目】R3年度



施工状況



【3年目】R4年度



◆ ウェットランドの維持管理

維持管理：R5年度より維持管理に移行するにあたり、浚渫頻度の検討を実施



R4年11月 ウェットランド完成

【監視体制】
河川巡視時に土砂堆積状況を計測（年1回程度）

R5年度より維持管理に移行

ウェットランドにおける維持浚渫頻度

- ウェットランド機能維持のために堆積した土砂の撤去が必要。
- 土砂堆積状況を予測



- ・ 維持浚渫の実施を判断する
平均堆砂面標高：T.P. -1.6m
- ・ 維持浚渫の頻度：およそ15年

沈殿ピットの平均水深が2mとなった時点の堆砂面標高分布

